

臨床医学4 第8回

7-1 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

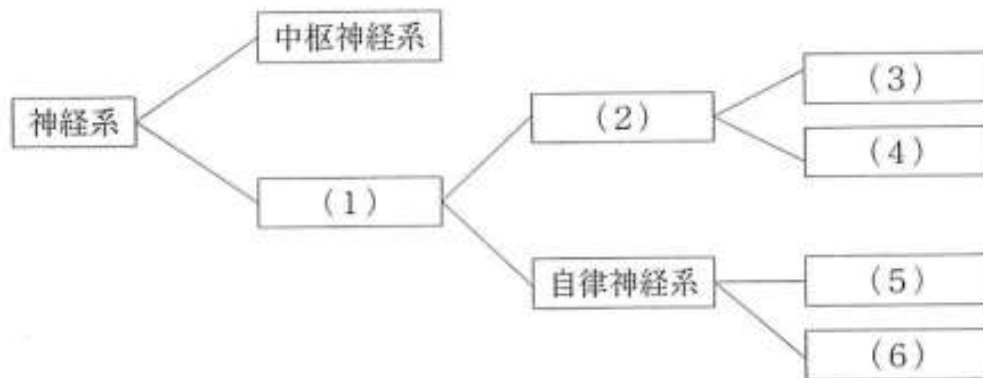
神経系は解剖学的に（1）と（2）に分けられる。（1）は（3）と脊髄をいい、（2）

には（4）から出る（5）と、脊髄からでる（6）がある。

語群

a. 中枢神経 b. 脳 c. 脊髄神経 d. 脳神経 e. 末梢神経 f. 脳幹

7-2 次の図で（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。



語群

a. 運動神経 b. 交感神経 c. 体性神経 d. 知覚神経
e. 副交感神経 f. 末梢神経

7-3 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

神経系は生理学的には（1）と自律神経系に分けられる。自律神経系の中樞は（2）の（3）にある。また、自律神経には（4）と（5）があり双方の働きのバランスが取れていなければならない。

語群

a. 間脳 b. 交感神経 c. 視床下部 d. 体性神経 e. 副交感神経

7-4 髄膜について、次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。語句桶群並剛選び刷号階 |

脳と脊髄を包む膜で、外側から（1）→（2）→（3）の順に三層になっている。脳硬膜には大脳を左右に分ける（4）と、大脳と小脳を分ける（5）がある。硬膜とクモ膜の間の腔を（6）という。クモ膜と最下層の軟膜の間は（7）と呼ばれ、（8）によって満たされている。

語群

- a. クモ膜 b. クモ膜下腔 c. 硬膜 d. 硬膜下腔
e. 小脳テント f. 髄液 g. 大脳鎌 h. 軟膜

7-6 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

錐体路の障害は（1）、（2）、（3）であり、錐体外路の障害は、（4）の発現と（5）の調節障害である。

語群

- a. 痙性麻痺 b. 随意運動 c. 病的反射
d. 不随意運動 e. 深部反射亢進

7-8 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

JCS (Japan Coma Scale) による意識障害の分類 (1) 方式

- I. 刺激 (2) 状態 (1 桁で表現)
II. 刺激 (3) 状態 (2 桁で表示)
III. 刺激 (4) 状態 (3 桁で表現)

語群

- a. 3-3-9 度 b. しても覚醒しない c. すると覚醒する
d. しないでも覚醒している

7-9 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

不随意運動とは、意思とは無関係に、出現する運動で、(1)、(2)などがそうである。言語障害は、うまく言葉を発することができない状態の(3)と、自分の思った言葉が出てこない(4)がある。

語群

- a. 構音障害 b. 振戦 c. 舞踏運動 d. 失語症

7-11 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

急性化膿性髄膜炎の発病は急性発症で、激しい(1)、(2)、(3)とともに、(4)、(5)などの(6)症状を認める。治療は、(7)の投与である。

語群

- a. ケルニツヒ徴候 b. 悪寒 c. 抗生物質 d. 項部硬直
e. 髄膜刺激 f. 頭痛 g. 発熱

7-12 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

脳膿瘍とは脳実質内に膿が限局性に(1)した疾患。(2)、(3)、(4)に多い。起因菌には(5)、(6)などがある。感染経路としては、(7)、(8)などからの直接感染や(9)、(10)、(11)、(12)からの血行性感染、(13)による場合などがある。

語群

- a. 黄色ブドウ球菌 b. 開放性脳損傷 c. 骨盤内臓器 d. 小脳、
e. 上気道 f. 前頭葉 g. 側頭葉 h. 中耳 i. 貯留 j. 肺
k. 副鼻腔 l. 腹部 m. 連鎖球菌

7-15 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

筋萎縮性側索硬化症とは、運動ニューロンが (1) とともに変性し、進行が (2)、原因不明の (3) である。発症後 3~5 年で (4)、(5)、(6) などで死亡することが多い。

語群

- a. 呼吸不全 b. 上位下位 c. 神経難病 d. 早く e. 窒息 f. 肺炎

7-19 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

アルツハイマー病は脳皮質の (1)、(2)、(3) が多数出現する神経変性疾患である。発症年齢により、40 歳未満 (4)、40~64 歳 (5)、65 歳以降 (6) で区別する。症状は徐々に出現する (7) で始まる。治療は、周囲との接触を多くして (8) を促すほか、(9) 療法を行う。(10) は認知症症状の進行を遅延させる効果がある。

語群

- a. アセチルコリンエステラーゼ阻害剤
b. アルツハイマー型老年痴呆 (認知症)、
c. アルツハイマー神経原線維変化
d. アルツハイマー病
e. 健忘
f. 若年性アルツハイマー病
g. 神経細胞脱落
h. 精神活動
i. 対症的薬物 j. 老人斑

7-20 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

多発性硬化症は原因不明の中樞神経の (1) で、病巣が (2) し、それらの症候が (3) と (4) を繰り返す徴候がある。(5) に多彩な神経症候を呈する。原因としては、(6) と (7) の 2 説が有力である。

語群

- a. ウィルス感染説 b. 炎症性脱髄疾患 c. 寛解 d. 再発
e. 散在 f. 自己免疫説 g. 中樞神経

7-22 多発性硬化症の症状で、適当なものを語群より選び、記号で答えなさい。

- 1 錐体路障害：(1)、(2) など
- 2 眼症状：(3)、(4) など
- 3 感覚障害：(5)、(6) など
- 4 小脳症候：(7)、(8) など
- 5 その他：(9)、(10)

語群

- a. しびれ感 b. 運動失調 c. 球後視神経炎 d. 痙性麻痺
- e. 振動覚障害 f. 知覚障害 g. 複視 h. 構音障害 i. 腱反射亢進
- j. 膀胱直腸障害

7-23 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

てんかんは、種々の原因により、(1) の異常興奮をきたし、(2) の発作を繰り返す。脳波異常の出現部位から (3) と (4) に二分され、さらに病因的に (5) と (6) に二分される。この二種類の二分法を組み合わせて (7)、(8)、(9)、(10) の 4 種類の類型に区分される。

語群

- a. 症候性 b. 症候性全般 c. 症候性部分 d. 全般性
- e. 大脳皮質神経細胞 f. 特発性 g. 部分性 h. 特発性部分
- i. 反復性 j. 特発性全般

7-24 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

てんかんの部分発作は 2 種類に分かれ、意識障害のないものを (1)、意識障害のみのもものと、運動発作を誘発するものを (2) という。臨床症状が (3) によることを示している発作で、運動症状は常に (4) であるものを全般発作という。その中で、突然に始まる意識障害で、発作後は神経症状、意識障害を残さない (5)、突然の意識障害とともに、硬直期の後、間代期となる (6) がある。

語群

- a. 複雑部分発作 b. 両側性 c. 強直間代性発作
- d. 両側半球障害 e. 欠伸発作 f. 単純部分発作

7-25 問 25 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

てんかん重積は、発作の持続時間が (1) したり、(2) する状態。大発作の重積が最も多いが、(3) や (4) の重積も見られる。生命に危険が及ぶので (5) に (6) を行う。治療は (7)、(8) の静注、(9) の筋注。誘因として抗けいれん薬の (10) や (11)、(12) などが考えられる。

語群

- a. ジアゼパム b. 過労 c. 延長 d. 大量飲酒 e. 気道確保
f. 治療 g. フェノバルビタール h. 早急 i. 怠薬 j. 小発作
k. 頻発 l. 部分発作

7-26 三叉神経痛について次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

三叉神経の知覚枝、(1)、(2)、(3) の (4) 以上の領域に出現する (5) である、三叉神経が (6) に入る部位で、動脈が (7) により (8) なったり (9) したりして (10) が (11) を直接圧迫して疼痛をおこす。

語群

- a. 1枝 b. 下顎神経 c. 眼神経 d. 硬く e. 神経 f. 上顎神経
g. 蛇行 h. 脳幹 i. 拍動 j. 老化 k. 疼痛発作

7-28 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

ベル麻痺は、急性の一側性の (1) で、明らかな原因はない。(2)、(3)、(4) に発症しやすい。

語群

- a. 高血圧 b. 糖尿病 c. 妊婦 d. 末梢性顔面神経麻痺

7-31 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

手根管症候群は、手関節部と横手根靭帯で構成される（1）内で、（2）が何らかの原因によって圧迫障害され、（3）の神経障害をおこすものをいう。手関節を（4）して動かす職業（5）、（6）などに従事している人におこりやすい。

語群

- a. 正中神経
- b. マッサージ
- c. 手根管
- d. コンピュータプログラマー
- e. 反復
- f. 末梢部

7-34 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

ギラン・バレー症候群は、急性上気道感染や下痢を伴う（1）後、（2）の経過で発症する（3）障害を主体とする（4）である。

語群

- a. 1～3週間
- b. 運動
- c. 胃腸炎感染
- d. 多発性末梢神経炎
- e. 感覚

7-36 次の（）内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

重症筋無力症は、骨格筋の（1）、（2）を基本症状とし、日内変動や（3）、（4）を繰り返すことを特徴とする（5）の疾患である。原因としては、（6）が関与している。

語群

- a. 易疲労性
- b. 寛解
- c. 自己抗体
- d. 増悪
- e. 脱力
- f. 神経筋接合部

7-39 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び記号で答えなさい。

進行性筋ジストロフィーは (1)、(2) の変性を主病変とする。遺伝性進行性筋萎縮症で、(3)、(4)、(5) の3つの遺伝様式がある。代表的な病型として (6)、(7)、(8) がある。

語群

- a. デュシェンヌ型 b. 伴性劣性 c. 骨格筋 d. 肢体型
e. 常染色体優性 f. 顔面肩甲上腕型 g. 心筋 h. 常染色体劣性

7-42 問 42 次の () 内にあてはまる語句を語群より選び、記号で答えなさい。

脳性麻痺は、胎生期から新生児期までの間に脳に加えられた (1) により、(2)、(3) の障害の残ったものをいう。障害は (4) に持続し、(5) である。

語群

- a. 運動 b. 非進行性 c. 損傷 d. 半永久的 e. 姿勢

7-43 脳性麻痺の成因について、適当なものを語群より選び、記号で答えなさい。

(1) 出生前：(1)、(2)、(3)

(2) 周産期：(4)、(5)、(6)

(3) 出世以後：(7)、(8)、(9)

語群

- a. 核黄疸 b. 重症脳症 c. 出生時仮死 d. 髄膜炎 e. 頭蓋内出血
f. 妊娠早期のウイルス感染 g. 脳の発達異常 h. 脳炎
i. 母体の外傷・重症疾患